

作詞者: D. W. ホイットル Daniel Webster Whittle (1840-1901)

1840 年 11 月 22 日、マサチューセッツ州生まれ。

1857 年にイリノイ州シカゴに移住し、その後会衆派教会に通い始め、聖書教室に定期的に出席。

1861 年、アビー・ハンソンと結婚、翌日南北戦争(1861-1865)に出征、戦闘中に右腕を失う。病院入院中に、祈りを懇願されたひとりの青年の為に祈り、その青年の死に立ち会ったことで、ホイットル自身の罪の許しと救いを初めて自覚。

※『Twice Born Men』<https://salvationcall.com/major-whittle/>

1865 年、南北戦争終戦後シカゴに定住し時計会社に就職。同時に市内最大規模のタバナクル日曜学校の校長に。

1875 年頃、彼は著名な伝道師 D・L・ムーディーの影響を受け、ムーディーの助手伝道師兼讃美歌作詞家として専業伝道活動に身を投じた。その後ホイットルは、彼と同様ムーディに誘われ(1868 年)歌う伝道者となっていた P・P・ブリス(1838-1876)とともにアメリカ中西部と南部のリバイバル集会を巡回。

1876 年、そのブリスはホイットルの了解のもと、ブリスの友人で後に「祝福の雨」に曲を付けたジェームズ・マクグラナハン(1840-1907)に宛てた手紙を送った。その内容は、マクグラナハンの長年の音楽教育を鎌を研ぐ男に譬えて、マクグラナハンに「鎌を研ぐのをやめて、主のために穀物を刈り取るよう」促したものであった。ブリスはその手紙を差し出した後、ホイットル率いる伝道集会に合流すべく夫婦でシカゴへに向かったが、途上の鉄道事故により 38 年の短い生涯を閉じた。

1877 年初ホイットルは、ブリス夫妻の葬りの為出向いた事故現場で、ブリスからの手紙を受け取りまた訃報を聞いて駆けつけたマクグラナハンと運命的な出会いを果たした。

※ <https://www.trumbullcountyhistory.com/mcgranahan-james/>

この時から始まったホイットルとマクグラナハン二人の活動はその後 11 年間続き、彼らは讃美歌と説教で全国を縦横に駆け巡り、さらにイギリスとアイルランドを 2 度訪問。

その間、「祝福の雨」のホイットルの詞 There shall be showers of blessing にマクグラナハンが曲付けした(1882 年頃?)。ホイットルが残した約 200 曲程の讃美歌の多くはマクグラナハン作曲。

ホイットルは自身の讃美歌についてこう語った。

「メッセージのない讃美歌は決して書きたくない。意味のない言葉を並べただけの讃美歌が多すぎる。善を行うには、讃美歌は神の言葉に基づき、神の愛のメッセージを伝えるものでなければならない。」

※ <https://www.wholesomewords.org/biography/bwhittle.html>

Biography of Gospel Song and Hymn Writers by J. H. Hall. New York: Fleming H. Revell Company, c1914.

作曲者: J.マクグラナハン James Mcgranahan (1840-1907)

1840 年 7 月 4 日、ペンシルベニア州生まれ。

1859 年、ニューヨーク州ジェネスコの師範音楽学校に入学。その後音楽教師、作曲家、歌手として成功。

1876 年、オペラでのキャリアを模索中に、友人ブリスによる召命の手紙を受け取る。この手紙が無ければ、ホイットル作詩マクグラナハン作曲「祝福の雨」は誕生しなかった。

1887 年、健康を害し引退。